



8月のお誕生日おめでとう

【掲載募集】令和2年10月の掲載分を、8月13日(火)9:00から電話で受け付けます。先着6人まで。対象は掲載時点で3歳までです。
*令和2年1、4、7、8月号の掲載枠に多少の空きがあります(7月22日現在)。
☎ 秘書政策課広報報道担当 ☎(36)1292



石橋輝くん
平成29年8月31日生
2歳・自由ヶ丘
お姉ちゃんたちと、輝く希望に向かい、共に歩んでいきますように…



白水蔵乃介くん・尊くん
平成29年8月18日生
2歳・東郷
マイペースな蔵ちゃん。好奇心旺盛な尊くん。元気に育ってね!!



濱田惇仁くん
平成29年8月4日生
2歳・赤間
毎日、笑顔がありがとう♡これからも妹と仲良く健やかに大きくなってね!



権田衣都ちゃん
平成29年8月3日生
2歳・河東
食べるの大好き、おしゃべりでおてんば衣都がみんな大好きだよ。



太田陽葵くん
平成29年8月2日生
2歳・赤間西
陽葵の笑顔は、お日様と向日葵みたい♡そのまま、元気いっぱい成長して♡



石田笑麻ちゃん
平成28年8月12日生
3歳・赤間
かわいい笑麻ちゃん。今も10年後も20年後もパパとママは愛しています。

ママ・パパレポーターが行く

ラブアース・クリーンアップに参加しました

さつき松原で6月2日、娘の友だちも誘ってラブアース・クリーンアップに参加しました。この活動は、平成4年5月に福岡市で行われた「ローマ・クラブ福岡会議 in 九州」をきっかけに、福岡から全国に広がっている環境美化活動です。また、環境省が制定した「海ごみゼロウィーク(5月30日～6月8日前後)」の全国一斉清掃活動の一環でもあります。6月2日時点で、今年度の参加者は全国で9,157人。可燃ごみ180,390ℓ、不燃ごみ56,580ℓ、プラスチックごみ39,960ℓが集まったそうです。
ラブアース当日は、受付で軍手とごみ袋を

もらえるので、気軽に参加できます。海岸を歩くとすぐに大きなごみを発見。拾ったペットボトルは汚れていて、リサイクルできそうにありません。きちんと分別すれば、資源になるのに残念です。
美しい自然が魅力の宗像市。地球環境に興味を持ち、自然とふれあうことで、地元を愛する心が育ちます。また、子どもでも参加できるごみ拾いは、みんなで協力して目標を持って行動するため、子どもの自尊心を育てることにもつながります。「神宿る」宗像にふさわしい、きれいな宗像にするためにみんなで参加しましょう! (ママレポーター 庄野)



みんなで宗像の海をきれいにしましょう

*子育て中のレポーターが取材したさまざまな記事は、市HP→「むむハグ。」→「イベントレポート」で見ることができます
☎ 秘書政策課広報報道担当 ☎(36)1055

市フェイスブック ～1年前は何しよった?～ 宗像大社 夏越の大祓式・夏越祭

【2018年7月31日投稿】
宗像大社で毎年7月31日に行われる「夏越の大祓式・夏越祭」。夏の無病息災を祈ります。全国から集まった紙製の人形に息を吹きかけ魂を入れ、体の悪いところをなぞることで病を移すといわれています。神事後は、古歌を唄いながら神職と共に大きな茅の輪をくぐり、穢れを祓います。夏も残り半分、体調に気を付けてお過ごしください。
☎ 秘書政策課広報報道担当 ☎(36)1055
市公式フェイスブックでは、さまざまな記事を紹介しています。ぜひチェックしてください。



健やかな夏を祈って茅の輪をくぐります

いいね! 「いいね! してね★」
Facebookでチェック
QRコード

盆期間の「燃やすごみ収集」の休み

(大島地区は除く)
8月13日(火)～
同15日(木)

- 粗大ごみ、資源物受入施設、宗像清掃工場(自己搬入)、不燃物埋立処理場、大島自己搬入は通常どおり受け付けます
- 資源物受入施設、宗像清掃工場(自己搬入)は、盆前後、利用者が多く混み合うので、時間に余裕を持って利用してください

☎ 環境課 ☎(36)1421

むなかた

令和元年11月 掲載分の「俳句」「川柳」「短歌」の各作品を募集します。①住所②氏名③年齢④電話番号を必ず明記して、ハガキか郵送〒811-3492/住所不要/広報報道担当各作品係あてへ応募してください。

▼作品・氏名には、漢字全てに必ず「ふりがな」を付けてください
▼俳句(当季雑詠)はハガキに3句以内
▼川柳は自由吟(雑詠)でハガキに5句以内
▼短歌の添削を希望する場合は、必ず返信用封筒と82円切手2枚を添えて郵送(1人3首以内)

☎ 秘書政策課広報報道担当 ☎(36)1055

俳句

白壁の米倉並び柿若葉 (丸山禎之・日ノ里)
生きてゐる幸せふふむさくらんぼ (古部詩子・赤間)
鮎桶を干してひとりに戻りけり (梶原マサ子・自由ヶ丘)

川柳

肩の荷をおろす陛下のよき笑顔 (田中市子・自由ヶ丘)
会いたいなもう一度だけ雲の間に (岩佐ふじ子・河東)
患者見て冗談飛ばす聴診器 (櫻木山彦・河東)

短歌

復興の支援が宿る大広間 「ここまでできた」とひかる目の闇 (早川祥三・玄海)
買物に来ても何を買うのやら 思い出せずにメモ紙を見る (徳丸信子・吉武)
天婦羅のジュウジュウ揚がる音を聞き 味見に一つタラの芽摘む (室園良雄・東郷)